



まきのほら協奏曲(コンチェルト)

お茶は会話をはずませる - 新茶の季節到来 -

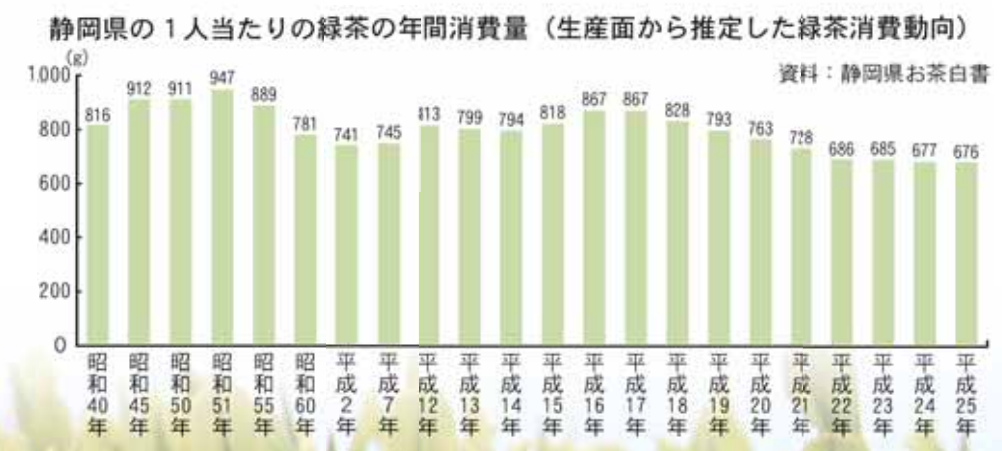
牧之原市(静岡牧之原茶)は、「第69回全国茶品評会深蒸し煎茶の部」で、茶葉の外観や茶の香気、水色、滋味などの項目で成績が優秀な市町村に贈られる産地賞を受賞。この機会に身近にあるお茶の魅力を再発見するとともに、多くの皆さんにこの味と香りを味わってもらえるよう、新茶の季節に合わせてお茶の話題をお届けします。
問い合わせ お茶特産課 永田 ☎0532621

「お茶！」味わっていますか？

あなたは、お茶をどのくらい飲んでいますか？
自宅や職場、地元での会社、ご近所とのお付き合いなど、皆さんの生活の中で茶を急須に淹れて飲む、味わう機会が少なくなっていますか。

お茶の消費量の推移

静岡県の1人当たりの緑茶の年間消費量(生産面から推定)



定した緑茶消費動向)をみると、昭和51年の947グラムをピークに年々減少し、平成25年には676グラムとなっています。

リーフ茶(※)の購入量と年代別購入量

緑茶の購入量も同様に、昭和50年代以降は減少傾向にあります。1世帯当たりの購入量は、昭和40年には2133グラム、1人当たりでは501グラムであったのに対し、平成26年には1世帯当たり889グラム、1人当たり293グラムとなっています。また、世帯主の年齢階級別に1世帯当たりの茶の購入量を見ると、世帯主が20代の世



帯では257グラム、30代では308グラム、40代では526グラムと、年代が高くなるにつれて、その購入量が多くなっている状況です。
(※)リーフ茶とは、ペットボトルなどの茶飲料以外のお茶の総称。

お茶と触れ合い味わおう

静岡牧之原茶を多くの人に味わってもらうため、関係機関や市では若い世代の皆さんをターゲットに、お茶に触れ合うきっかけづくりに取り組んでいます。



お母さんのお茶の淹れ方教室を開催



婚姻届出時に新婚のご夫婦にプレゼント

①お茶の淹れ方教室や急須とお茶をプレゼント
新米のお母さんを対象とした食育講座の一環として、お茶の淹れ方教室を開いています。自分でお湯を冷まして丁寧に、急須でお茶を淹れてもらい、飲んでもらいます。すると「お茶って、こんなにおいしいの」と多くの人が驚きます。
アンケート調査によれば、急須を持っているかという質問について、約9割の人が持っていると答えています。しかし、毎日急須でお茶を淹れると答えたのは3割程度です。家で急須を使う機会が減ると、大人だけでなく子どもがお茶に触れる機会も少なくなってしまうのです。
そこで、小学生を対象にしたお茶教室を開催し、終了後には急須とお茶のプレゼントをしています。さらに、婚姻届出時には、新婚のご夫婦に急須とお茶のセットをプレゼントし、祝福しています。